



新スタッフ紹介

7月号に続き、今回はプラネタリウム担当の学芸員補助スタッフを紹介します。

プラネタリウム担当学芸員補助スタッフの藤原正人と申します。

私は、以前池田市の五月山児童文化センターのプラネタリウムで15年ほど投影しておりましたが、この4月半ばより科学館の投影に携わらせていただくことになりました。

五月山児童文化センターはドーム径が5メートルと全国で一番小さいのに対し、こちらのドームは26.5メートル。そのスケール感は圧倒的で、プラネタリウムホールの雰囲気も異なりますが、真っ暗になれば、「基本は同じ」と言い聞かせて勇気を振り絞って投影しています。

これまでの学芸員補助スタッフの方々と違って「おじさん」ですので、経験した天文現象のせいで様々な症状を抱えております。例えば、最も患者数が多いと言われる日食病をはじめ、流星群追跡燃え尽き症候群、大彗星待望シンドローム等々(近いうちにオーロラを体験し、ぜひオーロラ熱中症になりたいと願っています)。これらを患うきっかけとなった天文現象を目の当たりにした時の感激を、星空の世界へお誘いするお話のネタとして、機会があれば紹介できればと思っております。

しかし、なんといっても、主役はプラネタリウムの美しい星空。このすばらしい星空のもとで、分かりやすくまた印象に残る宇宙のご案内を心がけたいと思います。そのことが、本物の星空を眺め、壮大で謎を秘めた宇宙に関心を持っていただく手がかりとなればと奮闘する日々です。どうぞよろしく願い申し上げます。



ふじわら まさと(学芸員補助スタッフ)

広 告